

令和6年度 第3回長崎市文化振興審議会 議事録

日 時：令和6年5月29日（水）14：00～16：00

会 場：市役所7階 記者会見室兼中会議室

次 第：

- 1 ながさきピース文化祭2025について
- 2 新たな文化施設の整備について

次第1 ながさきピース文化祭2025について

【事務局】資料1 ながさきピース文化祭2025について説明

【会長】

委員から意見伺う前に確認だが、昨日県の実行委員会があり長崎市から提案されたものは了承されたという理解で良いか。

【事務局】

県の実行委員会に正式に事業計画などを上げるのは5月31日でそれから承認の過程が進んでいき、県でまず審査いただきその後夏頃国に上がって最終承認が下りると聞いている。

【会長】

県の実行委員会では県の主催事業と市町から上がったものは、大枠は認められたと理解しているがそうではなくまだこれから認められないものが出るか。

【事務局】

それは無いと思っている。

【会長】

8月に文化庁に上がり最終的には文化庁のゴーサインが出るという理解で良いか。

【事務局】

そうである。

【会長】

ここに県の企画委員もいるので一応確認。皆さんからご質問を。

【委員】

先週日曜日に私達は第1回目の実行委員会を開催した。長崎と佐世保と諫早の団体が集まり、どういう形にしようかと話し合った時にSNSを使いこの国民文化祭を発信していこうとなった。SNSを使う時の注意点があれば教えてほしい。

【事務局】

SNSを通じた発信とのことでぜひお力をお貸しいただければと思うが、例えばピース文化祭のロゴ等をSNSに使用する場合、事前に県にも確認をする必要があると思うので、情

報を事前にご共有いただき連携しながらぜひ力添えいただければと思う。

【委員】

宣伝方法で、車を利用した宣伝、工事現場の壁の展示の他に掲示はどこかにするか。例えば、駅から会場までなど。石川県七尾市で長谷川等伯の展覧会があった時、駅を降りたら町全体でその展覧会を盛り上げていたので、いろいろなお店や小さい所もポスターやのぼりがずっとあってどこに行ってもながさきピース文化祭と視覚で宣伝する方法も各お店等と協力してしたら観光客もピース文化祭をしていると分かるのではないかと思った。

【事務局】

のぼり、ポスター、チラシ関係について基本的な物は県でご準備いただけるようになっていて、今県も準備検討されているところなので揃ったら皆さんの目に触れるようになると考えている。

【会長】

県で準備するのは当然あるが長崎市としても主体的にされたらいかがか。去年金沢市に行き金沢駅を降りた瞬間の見事なのぼりだけでなく素敵なお花がいけてあったりパンフレットもきれいに揃っていたり食べ物屋の案内が見事に揃っていた。国民文化祭として、それを県任せにせず市としても独自に取り組まれることもあるのではないかと思うがそれはいかがか。

【事務局】

先程ご説明したPRの具体的なものについては市独自でしようと思っているものである。皆さんご協力いただき素敵な事業を組み立てていただいているので、PRも積極的に行いながら皆さんに楽しんでいただくように準備してまいりたい。

【会長】

PRと当日、期間中長崎の心をお伝えしたいという意味で検討いただきたい。

【委員】

やっと始まった感じがしているが、PRの部分、今すでにあと1年になりまだ十分に長崎市民にも長崎県民にもあること自体も伝えられていないと思うので、ここは力を入れていけないといけない。県でももちろん進めていけないといけないが、長崎市は長崎市でお願いしたい。

県のピース文化祭のサイトができています。長崎市のSNSで情報発信とあるが、長崎市役所のSNSの例えばFacebookの中にコーナーにして入れるのか、それとも独立してこのピー

ス文化祭用のSNSを立ち上げるのか。もし立ち上げるのであればぜひ県のサイトとリンクさせてほしい。

また、ラジオは結構大きく書いてあるがテレビが週刊あじさいくらいしか無いのでテレビの活用、今日も取材に来られているが、テレビの方のご協力もぜひほしい。県へのお話になるかと思うが、例えば、来年秋に開催するにあたりそれぞれの団体が準備をしている。例えば県の主催事業でダンスのイベントを今企画しているが、若い方に実行委員を務めてもらいその方々のアイデアを取り入れる形でしょうとのことで今県のサイトで公募がなされている。実際それで立ち上がり6月の半ばくらいに1回目の実行委員会をする予定だが、例えばそのようなところから若い人達はそのイベントに向けてどういう準備をしていくというようなことを追いかけて取材をするなどしていただくと非常にまた盛り上がるということもあるので、そのような仕掛け、きっかけを作るといことも考えていけばどうかと思う。

【委員】

いろいろなメニューがあり今から鑑賞するのが非常に楽しみでワクワクしているが、この事業費と市負担見込額の差額は出演団体が負担するのか、別にスポンサーが付いていてそれで補填されるのか、国や県からの支援があるのかを教えてください。

【事務局】

まず入場券等は事業をされる側で負担をいただく事業費の分が収入で入ってきて、それ以外の部分は県の実行委員会と市の実行委員会から補助率がそれぞれあり補助金を支出させていただきます。事業収入として入場券を予定されている事業もあれば、広告費を集められる事業もあると聞いている。

【委員】

そしたら独自で企画してするよりこの文化祭の一環としてしたほうが非常にしやすい。

【委員】

市の地域文化発信事業で、従来長崎市でされている事業を国民文化祭に際し少し拡大してしようというものもいくつか入っているように見える。例えばまちなか文化祭。また、被爆80周年にちょうど当たるので、被爆80周年の記念の事業もいくつかあるように見えるが、被爆80周年事業としての市の予算は別にあり、それはその予算を使ってする形で、国民文化祭の期間だからそれに合わせてこの事業にも一応入れようという感じか、その辺の兼ね合いはどのようになっているか。

【事務局】

平和の分野について今上がっている5つについては、平和推進協会が企画の主体をしていただいている、予算については先程申し上げた実行委員会からの補助金の希望は無いと現在伺っているが、調整していく中でどうなるかというところはある。

【会長】

2つほど全体的なことでも要望として聞いていただきたい。

今回の国民文化祭、キーワードが絞り込んで6つある。地域の特色のところはそれぞれの事業が6つのキーワードとどう関連しているかを示していく必要があると思っている。それから来年終わった後この事業がどのように市民文化活動につながっていくかもどこかの段階できちんと示すべきという気がする。特に文化振興審議会としては非常に気になるところなので、その検証、まとめも、色々大変だと思うが、小さな表の中では関係ないと思うが、要素としては大事かと思う。

もう1点、国民文化祭は長崎県で初めてだが障害者芸術祭は2回目。過去1回長崎は心のバリアフリーを経験している。「文化をみんなに」というキャッチフレーズを作った。その部分で、障害者芸術祭に重きが置かれて良いのではないかと、特に長崎市の取り組みとしては、その辺がやや見えにくい部分もあるのでぜひそれを大事に、国民文化祭は初めてだが障害者芸術祭は2回目ということを踏まえていただければと思う。

【事務局】

ご質問のあったSNSの投稿について、著作権を役所の中で所轄しているのが文化振興課で、その立場でお伝えする。投稿される時に例えば個人の方が写っている写真をそのまま許可なく載せた時に後々トラブルになることがある。それから、全く意図せずに背景で写っているものもそのようなものの対象になることがあるのでその部分は注意していただければと思う。これは皆さんへよろしくお願ひしたい。

【会長】

議題1つ目はよろしいか。2つ目、新たな文化施設、前回いろいろご提示いただき皆さんと意見交換したが、今日はもう少し掘り下げてしていく。

次第2 新たな文化施設の整備について

【事務局】

冒頭少し説明をさせていただく。前回様々な観点からのご意見を頂戴した。今回の資料でも載せているが、前回の意見を踏まえさらに深い議論ができればと考えている。そのような中で基本的な考え方のところだけ少し触れたいが、前回の審議会でもあったようにこれまで数年の長期にわたり基本構想から基本計画でそれぞれご意見を頂戴してきた。そのような中で前回も触れたようにやはり様々な状況の変化があるのでそのようなことを踏まえた見直しができないかというものが前回のものである。基本計画の策定に向けた検討は、令和元年に基本構想を策定し、その後令和2年度から具体的に検討させていただいている。その時点で把握できる他都市の状況などを前提とし議論をさせていただいてきた。一方でその時点から物価もそれ以外の設備面での技術の進歩や他都市でできた新たなホールの運用やノウハウで社会状況等も踏まえいろいろな工夫もされているといった状況の変化もあっている。基本的なところだが、文化施設に限らずそのような何らかの状況の変化があれば行政また公的施設として常に効率化等を図っていく必要もあり、そのような変化を踏まえ改めて精査した結果として今回このようなものが見直し可能ではないかとお示しをさせていただいている。当初の予定通り例えば設計段階に仮に進んだとしてもその設計の検討の中では基本計画より具体的に詳細を詰めていく必要があるが、詳細に具体的に内容を整理していく中で今回のような状況の変化を踏まえた見直しも出てくると考えられ、今回設計段階でないと見えてこない詳細部分も含めその手前の検討レベルにはなるが見直しが可能と考えられるものをお示しさせていただいたと状況なのでその点についてはまずご理解をいただきたい。今回の見直し案は前回出された意見も踏まえご説明するとそのような状況の変化を踏まえてではあるが、長期にわたり議論させていただいた基本構想や基本計画の中の例えば目指す姿など基本的な考え方やいわゆるコンセプトの部分については維持しつつ具体的な施設の内容について一部見直しが可能ではないかと考えているもので、ご指摘ご意見にもあったように、この内容で進めるとのいわゆるありきということではなく、実際の利用状況なども踏まえ審議会のご意見等も踏まえ可能かどうかを判断していく必要があるものと考えているので、そのための案、たたき台とご理解いただければと思う。今申し上げたようにそのような意味からも前回ご意見の中でもあったように削減ありきということでは決してない。目標の設定とのお話もあった。今申し上げたことを踏まえると現時点ではその具体的な額や面積を示すのは適当ではないと考えている。整備スケジュールについても以前説明したがサウンディング調査も予定をしている状況でその状況も見えない中で具体的な整備スケジュールを明確にお示しするのはなかなか現実的にも困難な部分があることを含め、委員の皆さんのご理解をいただきながら先程言ったように置かれた現状、状況の変化を踏まえた中で見直しが可能なものについては少しでも見直しをしていく必要があるのではないかと案をお示しさせていただいているのでそのようなご理解で忌憚のないご意

見を頂戴できればと思っている。

【会長】

ご説明を理解したいと思うが納得できるかは別の問題。削減ありきではないとの大前提が無いと議論のしようがないと思う。設計の段階に入れば見直しをしなければとのことだが設計に入れていない。設計に入り見直しをするのと設計がいつになるか分からず見直しをするのはだいぶ違う気がするがそれは後ほど議論できればと思う。

【事務局】 資料2 新たな文化施設の整備について説明

【会長】

今日の進め方は、個別の項目について少し意見交換をした後に全体の進め方で良いか。最初にまず何かあるか。

【委員】

前回の意見と見直し案は書いているが、今事務局が説明したその理由とこのようにしたら良いという方が文章として必要だと思う。例えば切穴とはどういうものなのかなど、参考資料も無いのでそれをもって議論をと言われても困るというのが最初に感じた印象。

【事務局】

記載が無く大変申し訳ない。1つずつご質問の中で復唱になる部分もあると思うが、丁寧に説明をさせていただければと思うのでよろしくお願いしたい。

【会長】

前回議論で委員からの意見がたくさん出ているがそれに対してどうだったかがなかなか今説明では感じ取れなかったのもまた同じことが発言で出てきてもそれはそれで受け止めていただくことがあるかもしれない。進め方は1つずつ良いか。まず舞台（奈落）についてご意見はあるか。

【委員】

先程9か所切穴を作っているところもあるとの話があったが、より費用が掛かる気がしてよく分からなかった。切穴はどういうものか。例えば穴だけ開けておいて実際興行するところから迫りになる機械を持ってくるイメージかと想像はしたが分からない。

また、基本的には前回出された見直し案をそのまま通すと聞こえたが、そうではないか。

【事務局】

まず前回見直し案をどのような理由と背景があり提示したかのご説明をさせていただいており、それを我々は通してほしいということではなくこのような理由で見直しを提示させていただいたのでそれについてまた具体的に意見をいただき、議論を深めていきたいとの趣旨である。

切穴について、大迫り小迫りはブリックホールにもあるのでお分かりかと思うが、切穴はさらに小さい、人が一人出てくるくらいのサイズで、それを例えば舞台のふちに何か所か開けておくとそこから人が出てくるような演出を、機械を使うのではなく例えば手動や移動式の装置で上げ、道具や機材を下から運ぶ時にわざわざ小迫りに乗せなくても、その切穴を通して運ぶことができる。それが舞台のどの面にいくつ必要かは今後詳細な設計の中で決まっていくが、手法としてはそのようなものがあれば、道具を大迫りに乗せて機械で上げることなく対応できると他の施設で確認している。

【会長】

切穴を作る時には奈落の面積は大幅に減るのか。

【事務局】

ブリックホールぐらゐのサイズの大迫りが無ければ、その下の空間は有効活用できている。大迫りがあると使用頻度の割に下の空間がずっと空いている状況になっているのでそれをうまく使えないかとの趣旨である。

【委員】

切穴良いと思う。ブリックホールの大迫りは奈落の底がとても低くあそこまで作るとお金が掛かる。小迫りは人が一人入る分くらいの深さのもので、切穴はマス目で示すと、ここここで人を出すなど多彩な演出ができるもの。大迫りはたぶんいらぬしブリックホールの大迫りは深すぎるので使い勝手が無い。上演中に下げて上がってくるまでにたぶん10分ぐらゐ掛かり、10分間黙っているわけにもいぬ。舞台上の荷物を積んで奈落に下ろして奈落の倉庫で片付けるぐらゐしか使い勝手が無いので、大迫りが必要とは思わぬが、ただ低い天井があり人が上がるころがあればそれほど掛かぬ。大迫りを指定しているわけでもぬし、ブリックホールまでの大迫りはいらぬと思う。ただ切穴を開けると音楽家はとても嫌がる。小迫りでもそうだが小迫りと舞台との境目にピアノの脚が来ると音が変わるからこれは嫌だととても言われるのでそこは工夫したほうが良いと思う。ただ舞台上に何もないと公民館や体育館の舞台と同じ平舞台になり、演出で何もできないので何かは必要と思うが、切穴を調べられて議論して持ってこられたと思うが、それに特化しなくても良いと思う。ただいろいろな音楽のコンサートをする時にどうするかもたぶんあると思う。ここはたぶんブリックホールの大迫りはいらぬと思う。

【会長】

ピアニストが来た時にピアノの脚3本の1本でも小迫りに掛かれば音が全然だめになるので置き場所が限られる。小迫りがピアノを置きそうな脚の位置に意外とあり、それを外して乗せたりする。どこをどう切るか切り損なわないようにということはあるかと思う。

【委員】

音楽の部門に関してステージの床板は音響にとってとても大事で、そのホール全体に響きを伝えるうえでの重要な要素がある。板が一枚につながっていない部分があるとそこに何かを置くと伝わり方が全く想定外のものになってしまうので、そのホールがもともとデザインされた音響とは違う響き方になってしまう側面があり、そこは極めて、他の演目でそのような要素が必要とはもちろん理解しているので、その必要性があるのであれば開ける位置等についてはとても慎重になっていただきたいし、当然そのような設計に慣れた方、今まで経験された方へお願いすべきだと思うし、その時に音楽業界の意見は当然取り入れていただければと思う。

【委員】

ダンス関係においても照明が当たっている中足場を確認できず足がつまづくことがいろいろな場所で起こってくる。迫りに関して大きいものだとそのままその上で使えば良いが、小迫りなどいろいろなところに足場ができると、リノリウムを引くなど対応しないとけず、ダンス関係においても都合は悪い。何かする時は台を組んだりしていて危険がとてもあり、出ハケ(退場・登場)も危険がとてあるのであまり都合は良くないと思う。

【会長】

奈落はあまり深くなくても何とかかなりそうでブリックホールみたいな大迫りまでいらないが、何らかの人が出てくるものは必要でそれをどこに置くかはかなり慎重にという見解で良いか。

ホワイエ・エントランスロビーについてご意見はあるか。

【委員】

先程の説明だと結局切り分けるがその分け方を十分考えるとの話だったと思うが、例えば、可動式で区切れも開けもする形は取れないのかと思った。実際その中で劇場的な使い方をしたい時は塞いで、そうでない時はオープンにする形はどうか。

【事務局】

前回お示しをさせていただいたいくつかのそのような事例の施設にも聞き取りをさせていただいたが、運営で例えばベルトパーテーションやロープで仕切りを作る例も確かにあり、

そのような運営の中でなかなか大変とのお声も確かにあった。今委員からご提示のあった可動式などはもう少し事例も詰めて調査は続けていきたい。

【委員】

前回も出たと思うが、やはりその中で何か興行をする場合にオープンになっていて部外者が簡単に入れるような形になるとセキュリティ的にも良くないし、実際興行をする立場から言うとできれば仕切りたいというのが本音。よろしくお願ひしたい。

【委員】

ブリックホールで入口があり、上に上がっていき劇場があり劇場のロビーになっている。公演が終わると観客がロビーから帰ってくるが、楽屋側から出演者が出てきて友達とたまり警備員にここで騒がないようにと怒られることが毎回起こる。出演者にここから出て観客に会うのはだめと言うが、やはり出演者としては観に来てくれた観客と会い久しぶりと言ひ花束をもらひ毎回成人式のような空間になっている。だから新しい劇場を作る時も動線を考えながら出演者の楽屋がこのようになっているからこのような動線にすればここで出演者と会えるなどまた違う空間を作るような工夫があれば良いと思うが、今のブリックホールのロビーが何にも役に立っていないと思うので、開演までにちょっと待っているだけのところなので、新しい劇場ではうまく考えられたら良いと思う。

【事務局】

先程の可動式のパーテーションも今の楽屋も運営とかなり密接に結び付いた整備が必要というのはご意見いただいた感想。本来であれば管理運営計画を同時に進めながらハード整備を考える予定だったので、今後運営をどのようにしていくか、どのような使い勝手が良いのかを同時並行でご意見をいただきながら作りを考えていきたい。

【会長】

先程の意見で、ロビーは待っているだけとのことだが、例えば新国立劇場は1時間前に皆さん行き座っている席もあればカウンターでコーヒーを飲んだり、今日のプログラムを見ながらのんびりと開演を待つ、休憩時間に感想を言いあっている横で子どもがフライドチキンを食べたりもあるが、そのような場として実は大事。トイレ休憩だけのものではなくそれも含めて劇場なので、そのような感覚もどこかにあって良いかと思う。我々は劇場を目指しているところもある。劇場はそのような時間、空間を楽しむ場。それはホールの中だけではないような気がする。エントランス、ロビー含めて劇場とのイメージを持っている。いろいろな工夫ができれば良いと思う。他にご意見よろしいか。

(調光盤室の) ハロゲンについてご意見はあるか。

【委員】

LEDも良いとは思いますがやはりハロゲンも使えるようにしておかないと、いつできるのか分からないが、確かにLEDの技術は進んでいるがLED一辺倒だとたぶん難しい気がする。今どんどんLEDになっているのはホワイエやトイレ、劇場でも前明かりや反響板の明かりなど明るくするだけだったら資料にも書いているが、たぶん今度新しい劇場にする時にはブリックホールみたいに何百台も照明機材はいらないと思う。必要な時に必要に合わせて業者に入ってもらい、照明の保守点検やメンテナンスはお金が掛かるので、必要以上に置かない。幕張メッセは電気とボタンはあるが機材はそんなに無い。全部業者が一緒に来て照明技術者が持ってきているので、今のブリックホールの機材ほどいらない。保管場所も必要になってくるので、地元の業者と一緒になり地元の業者だったら照明の機材も自分達で保守点検を常にしているのでそのようなところで民間と関わって運営していく。全てLEDに変えるとの方向性がちょっと違うとの考え方があり、もっと減らすところは機材を減らして半分にするなど、LEDでなくハロゲンが必要な演目には演出が付いているからたぶんほとんど業者が来る。ホールの人にオペレーターをお願いする時は大体音楽で明るくする暗くする程度で細かい演出がある時は必ず付いているスタッフがいるのでその方と密にしていなくてやはり舞台演出照明はできないので、必ずその方が機材を持ってくる。だからそこに置いておく必要はなく、電気と機材が吊れる設備があれば、調光器もたぶん業者が持ってきてそこでオペレーションするので劇場に全て置く必要は無いと思うのでそこもやはりその段階で考えていければ良いと思う。だからLEDに変えると言ってしまうとLEDだったらだめでやはりハロゲンも必要としか言えないが、設計する段階で電気と照明のボタンがありこれだけのものを出してあとは予算が決まる都度という決まりごとで節約できれば良いとは思っているので、そのような認識を持っていただき設計する時には話に乗らせていただければ良いと思う。

【委員】

設備的なものはどんどん新しいものが出てくればそれに変えたいというのも出てくるし、メンテナンス、維持が大変なので基本的なものが揃っている形が良いと思うが、ただ実際業者が入ってするプロの興行だったら持ち込みできるだろうが、市民が自分達で作る何かする時にはなかなかそこまで費用が掛けられないこともあるだろうから最低限舞台が維持できるものは置いておかないといけないと思う。

【委員】

劇団を年に6、7回呼んでいるが、照明は劇団の方と市民会館のスタッフの方が直接お話をされている。専門的なことは分からないが、使用料として払う場合に照明に関するものが一番高いと思ってしまう。現在の市民会館がどんな照明を使っているのか専門的なことは分からないが、ハロゲンが必要な場合ハロゲン、LEDで良ければLED、なるべく無駄なも

のは運営上も厳しいので、皆さんの意見に賛成。臨機応変に対応していただきたい。

先程、迫りの話も出たが、我々はせりふ劇が主でほとんどの演目をストーリー化しているので、同じ歌舞伎にしても見えを切ることは無く迫りを使うことは今まで無かったが、小迫りができるのであれば、劇団が使うこともあるのではないかと、今まで市民会館に無かったから使えなかったというのもあるので、先程のいろいろな意見を良いと思っている。

ホワイエとエントランスロビーも可動式は本当に良い案だと思った。切り分けるところは切り分ける、オープンにするところはオープンにするというのをきちんとしていただければ催事の時もそれでうまくいくのではないかと思う。

【委員】

ホワイエ・エントランスロビーに関して、仕切る時と仕切らないでオープンにする時の可動式の設備の維持管理が当然発生するとイメージしながら、あったらあったに越したことはないと思う。他都市では例えばホール目の前の芝生広場との間の壁は開けられるというところもあるが、やはりそれは相当のコストが掛かるという建設者のご意見があったので、当然ここにそのような設備を作るとなるとそれなりの費用が掛かり何の節約にもならないのではないかとこの危惧が今ちょっと生まれつつある。人的な要素で解決するのも一つの方法だが、例えば子どもがそこの中にくぐって行くことは当然起きるだろうし、人員を集める作業やその人件費が当然発生し負担が生まれていくのではないかとこの危惧もまたちょっと芽生えつつあるので、現時点では私の中で結論は何も出ておらず、これから皆さんと話し合いつつ最善の方法を導き出せば良いと思うが、兼ねるという考えはあまり賛同できない。もちろんそれにはお金もいるが当然この中に例えば現状では 1,000 人の客席を設けるとの話になっているのでその 1,000 人が余裕をもって過ごせる空間は当然必要で、全員が全員ロビーに出て時間を過ごすことはあまり想定する必要はないのかもしれないが、有事の時には全員が避難場所としてそこに出ることも当然あり得ると思うので、その時に皆さんが将棋倒しになるようなことがあってはならない最低限のスペースを考えた時にはやはり余裕がある空間は必要だと思うし、もちろんホワイエとエントランスロビーを分けるに越したことはないとの観点からもある程度一定そのスペースをここが無駄との考えにせず少し柔軟に検討していただくのが良いのではないかと聞きながら思った。

先程の明かりに関しては、建物全体は全てLEDでも良いと思うので、舞台装置としての明かりは演出上必要な時にハロゲンが持ち込んで使えるための最低限の装置、バトンや電源は備えておく準備があれば良いと思った。

【委員】

可動式は電動でなく人が外して切り替えるイメージ。電動にするとちょっと高すぎると思う。

【会長】

話がホワイエ・エントランスロビーに戻ったが、もう少し検討で、より良い使い方がきつとある気がする。

明かりは、前はハロゲンかLEDかだったが照明はすぐ古くなるからあまり置いておかずその時レンタルすれば置き場所がいらぬとの新たな削減案、確かにそうだと思う。

【委員】

先程ホールの照明が高いとのことで、確かに高い。なぜかというとなぜか付属で付いている照明機材は1台ずつ何台使ったか正確に数える。業者にこれだけと言えこれぐらいが良いとの形でもできると思う。ホールに付いていると、使わずにわざわざそれを外して持ってきたものを付けるのはまずしないので使ったら使った分だけの台数はきっちりやはりスタッフは出すので高くなるとの考え方をすれば、業者が持ってきて一山いくらのような話ができるかもしれないので、その方が良かった。

【会長】

明かり関係はよろしいか。芝居も必要だろうが例えば学校の子どもたちの音楽会の時に業者は入らないので最低限のものは当然必要かと思う。

リハーサル室（小劇場）についてご意見はあるか。

【委員】

リハーサル室（小劇場）は前に会議していた時にせつかくリハーサル室を作るならそこが小劇場にもできるようなものができれば一番良い、大ホール、中ホール、小ホールのような、北九州芸術劇場のような感じでできればと思ったので、ブリックホールのリハーサル室は広いのは広いが何も無いし天井が高い。天井の高さも半分で良いし、あれぐらいの広さがあるなら電気やボタンがあればもっと自由に使える空間ができるのではないかと小劇場との話を私はたぶんしたと思うが、その時は予算も何も出てこなかったもので、言いたいことを言っていただけだったので、絶対ここまでの規模をしないとイケぬとの形ではないと思うが、やはりリハーサル室は絶対必要だと思う。ただリハーサル室を使わない時に、そこで何かをしようとした時に照明機材もいらぬしボタンと電気があれば舞台は作れるのでそういう機構を作るとの感覚でいていただければ小劇場を作るとなるとすごくお金が掛かり設備が大変となるかもしれないが、この小さい面積でも対応できていると確認できたというのはたぶん30人しか入らぬと言われればそうかとか言えぬし200人と言われればそうかとか言えぬし人数はその時の規模によって違って良いとは思いますがリハーサル室というからにはこの新しい劇場のステージはそのままできるぐらいの広さはやはり必要だと思う。ブリックホールもそうだと思うがブリックホールと同じ広さをリハーサル室でできるのがその劇場の中にあるリハーサル室の本当の意味だと思うので、そこだけ確保しても

らえればあとはそんなに小劇場にする必要はない気がする。

【会長】

この審議会ではもう少し踏み込んでいたかもしれない。1,000席の会場は演劇にどうかということもあり、リハーサル室を小劇場としても使える、入口を別にしてそこでイベントができるようなこともたぶん話をした。もっと大事な点は創作の演劇に1,000人のキャパはちょっと大きすぎて200~300人のキャパで日常的に創作活動できる場としてリハーサル室を小劇場としても十分活用していきたいとの意見も相当出ていたので遠慮なさらずに小劇場は小劇場としてある程度必要とおっしゃっても良いのではないか。やはりこの場は創造、創作の場でもあるので、大きいメインのホールではそのようなことはできない。一番使い勝手が良いのはリハーサル室（小劇場）で稼働率が絶対高くなると思うので、大きさは別としてそれなりのものは必要。柳川のような床がマス目に切っておりどこでもステージになるようなものを作ったら大変だろうからそこまで言わないが十分小屋として使えるのもであっても良いと議論を聞いて思ったがそうでもないか。あまり無くても良いか。

【委員】

いや、あれば良い。

【会長】

お金を掛けすぎるなど。

【委員】

そうである。劇場にするために機材は入れず、リハーサル室はリハーサル室で、椅子はパイプ椅子、舞台も平台を大ホールから持ってきて台を作る、ぶら下げるバトンや電気があればそれで良いが、使い方は会長が言ったような使い方はしたいし、1,000人規模の劇場より200人ぐらいの方が芝居はとてもしやすいし、平日でも仕事が終わった後に100人ぐらい寄ってもらえるような芝居を作って上演するのもできるし、確かに大ホールよりも稼働率は上がるのではないかと思う。

【委員】

私達は出演する側よりも観客側が主な活動になる。子どもたちが観劇する時に一番メルカつきまちを使っている。100~200人ぐらいの観客で平床使いで使うことが多い。大きな舞台を観ることももちろんその良さはあるが、子どもにとっては届く距離で息遣いを感じながら少ない人数で観る環境はとてとても大事で幼くなればなるほど30組程度の親子が集まり贅沢な空間を作りながらやっている。ブリックホールのリハーサル室も使いたいが、定員は50人となっているし利用目的として観劇は基本メインの設定ではない。だからやはり私達は

舞台鑑賞ができるスペースとしてぜひリハーサル室は最初から構想の中に小劇場としても使えるということをぜひ入れて大事にしてほしいのと、先程会長が言ったようにやはり出入口も大事で今ブリックホールのリハーサル室だとすごく奥の方まで行かないといけない通路で、親子で観劇するのに奥まっているし窓も開かないところなので子どもたちが自然に集まって心地良く音楽や舞台や演劇を観られることを最初から考えてぜひ作っていただきたい。先程のロビーにも通じるが、前回出たメルカつきまちのロビーでお話をしているとうるさいと言われたということもすごくあり、子どもたちは黙っていてもおしゃべりが始まるし、観劇鑑賞する場は人と会う楽しさがある。だから舞台が始まり観る時は静かに観るが、その前後で人と会い久しぶりと言ったり観た後に感想を言いお話ししたりするのが、静かにしないとイケない空間になるととても残念で、楽しかったと終わってから皆で分かち合えるようなスペースもやはり大事に作ってほしい。

【会長】

私達が忘れてしまいそうなものすごく大事な観点が出てきたがそれこそ賑わい。賑わいは子どもが作ってくれる。

【委員】

リハーサル室を催し物で使う場合の防音システムは普通どのようにするか。例えば先日チトセピアホールで踊りだけの2人の公演をしたが、ある程度の音響を鳴らすので、例えば今おっしゃっているようなイベント用として使った場合、ソロだけ1時間、1時間半するなど、そちらを使う方がより効果があるような踊りがある。先日それをしてみたが、もう少し小さいところで丸くしてセンターで踊らせるのも良いと思い、もしこのリハーサル室が利用できるのであればそういう形で使わせていただくようなことも可能かと思ったが、音の漏れ方がちょっと気になった。

【委員】

リハーサル室は練習室など他の所と音が交わり邪魔にならないように基本的には防音している。だから演奏家が練習室やリハーサル室で演奏すると響きが無いので本番の劇場とは違う感覚かと思うが、防音になっているのが基本。大きく鳴らしても大丈夫なようにしているところはあるが、島原の劇場で鏡がある部屋になっている防音をしていないところもある。今回作る時にはしっかりと防音が必要な気はする。

【委員】

リハーサル室の名目は先程委員がおっしゃったように例えば定員の問題などもあると思うので当然そのような使い方が最初から想定されているのであれば小劇場としても使う前提のもと定員や面積を決めるべきだと思うし、メインのホールとロケーションとしては極め

て建物の中で近くなると容易に想像がつく敷地面積なので、当然防音には相当配慮が必要だと思し、例えばブリックホールのリハーサル室はメインのホールとフロアも違いとても離れている練習室のフロアにあるからこそ一枚扉でなんとか成り立っているが、二重の頑丈な扉で防音、室内でどれだけ大音量で鳴らしていても外の廊下には漏れないようなことを当然配慮する必要があると思う。防音すると当然響きはあまり無い空間になると思う。実際ブリックホールのリハーサル室もそのような作りなので我々演奏家がリハーサルとして使うには非常に響きが無くて演奏しにくい空間ではあるがそれは致し方無いことだと思う。必要な面積はおそらく大ホールのステージとその袖と同じ練習がそこでこなせるだけの面積が適当な面積だと思う。音響に関して天井の高さがどれくらい必要かは分からないが、ブリックホールほど高くなくても小劇場として使うときに大体必要なバトンを吊れる高さが自ずと算出できてくるような気はしている。

【会長】

防音ももちろんだが一般的に遮音、中の音場（音が広がる空間や場所）は作りながらも外に音が漏れないよう遮音する。中の音場設計と遮音、防音はちょっと違い一般家庭では音が外へ出ないように中で吸音をするが専用のホールは中の音場を作る。例えば調音パネルを置いて調整できるが、しっかり遮音して、遮音は壁と壁の間にいかに空気層を置くかで、それは技術的に可能。

【委員】

リハーサル室だとリハーサルしか使わないイメージになり劇場としても使いたいとなるので、もう少しマルチに使えるようなことを示す例えばスタジオみたいな言い方で、リハーサルや劇場機能や若い人たちがバンドを組んで何かすることが可能な設計が良いと思う。展示に使う場合は今の想定の中でするのはとても大変なので、展示にも使えるぐらいにならないと思う。展示は最低1週間欲しいとなると、1週間そこを使いきったら大劇場を使う時にリハーサルに使うことが出てきてしまうので、空いている時にたまたま展示をするとなってしまう可能性もある。だから展示の空間はもちろんとても大事だが、どこまでその機能をするかより先行すべきはむしろリハーサルや小劇場として使えることで、それはリハーサル室があたかも小劇場として使えるような何らかの創造空間として使えるようなネーミングが考えられるとむしろもっともそのスペースが有効活用されると思うので名前から入ってはどうか。

【事務局】

今委員がおっしゃったことがまさに私達も考えているところで、リハーサル室は機能的に分かりやすいようにそのように資料に書かせていただいているが、基本計画上、創作・イベントルームという仮称ではあるが、少しマルチに使えないかと、ただもちろん主の目的はあ

ると考えさせていただいている。

遮音性についても基本計画の中でしっかり書くべきとのことで、はっきりと遮音性にも配慮するとうたっているのをこれをもとに設計していくことになる。

【会長】

創造空間、クリエイティブスタジオなどにしたらリハーサル室(小劇場)よりはずっと良いような気がして印象が相当変わる。何かそこで生まれてくるような、とても良いような気がする。ただ面積の問題だけではなく、いかにこれを活用するかのお話が今日できて良かった。今出たご意見を大体まとめていただければ方向はだいぶん見えてきたと思う。このテーマは大体良いか。

前回意見が一番多く出た練習室についてご意見はあるか。

【委員】

改めてお話を聞いて、ブリックホールの会議室の早期改修が方法の一つで前提としてあがっていたと思うが、少人数でも利用できるものもちろん必要だが、合唱の練習の場所が無い、そもそも駅前にあったいきいきひろばが無いから練習場所に困っている人達は大きい練習室が必要だし、ブリックホールの会議室の改修は、今は会議室があれだけありあの部屋の区切りと思っているが、どの規模をどれくらい予定されているのかと疑問に思った。

【事務局】

まだこれから検討段階という状況。ただ一方でブリックホールの練習室の稼働率はコロナ禍以降また 90%ぐらいに戻ってきており、市内でそのような不足がある事実は間違いないので、ここからの時点にもよるとは思うが、どれくらいどのような面積で必要なのか、それを可動式で小さいものも使えるようにするのか、大きいものだけにするのかも含め、どれくらいの改修が必要か、今場所は学会の機能がいらなくなったため会議室を練習室に改修することが決まっているが、内訳については皆さんにもご意見いただきながら今後進めていけたらと思っている。

【委員】

早期改修をすることを前提となっているが具体的にその早期はどれくらいの時期を目指しておっしゃっているのかが知りたい。

【事務局】

前回の審議会でのご説明の繰り返しになる部分もあるが、元々新たな文化施設の基本計画を策定した時点では順番があり、まずは文化施設ができてからというところがあったが、皆さんからのご意見としてもこのような状況で文化施設が少し後になっているところで今の

直近の喫緊の課題である練習室の整備が早めにはできないかとのことで、まさに市としては早期に着手をしたいというところまではあるが具体的に休館期間をどこに設けられるからいつできるか、期間がどれくらいかかるかを早期に検討していきたいと思っているので、現時点でいつとは申し上げられない。

【委員】

そのようにしかお答えはいただけないだろうと思いつつもわざわざお聞きしてみたが、要はメインであるこちらの新たな文化施設が停滞状態に陥っている現状を踏まえた時に、そちらにも練習室を作るが、数は元々限られた練習室だから本体にはできないことも我々は分かっているそこは妥協の産物なので、それだけでは絶対足りないというのが当然あるので、現状足りないところをもってして新たな施設の練習室も建たないとなってしまっているのです。まずはそこを解消していただきたいと、実際市民が困っているのです。そこは直近の課題だと思うので、悠長なことはきつと行ってはいただけないのではないかと、ここに座っていらっしゃる皆さん思っているらっしゃると思う。もしそこが早期改修できたとした時にあとは残り新たな文化施設の中の練習室で実際足りるのかはまだ蓋を開けてみないと分からないが、まずはとりあえずそれが早急に取り組めるようにご努力のほどをいただきたい。

【委員】

練習室となっているので先程の委員の言い方とすれば練習室なら練習だけになってしまうので創作室のような名称に変えれば絶対必要になってくる気がする。ブリックホールは練習室に改修するなら練習用だけだが、この施設で練習室を作ることは、文化を発信する場所としてこのホールをするのであれば、発信するスタッフが練習室でこういうことを始めてみようとの発想もできると思う。だからホールだけのところでなくそこから文化を発信していくと考えるとやはり練習室がどうしても発信の元になり、子どもたちを呼んで絵を描いてみるでも生け花の教室をしてみるでも発信の拠点になるようなものを作れると思うのでこれは絶対必要、練習室は無くても創作室は必要な気がした。

【委員】

資料を見て分かるようにそもそも前回一番意見が出てここだけは譲れないとなったと思うのでそれでもやはり削るかと思ったが、特にこの意見の中でも2番目、「創造支援機能として絶対必要と議論してきた。これからの文化施設はいかに活動を広げていく～」のこの部分が一番重いところで今委員も言われたようにそこを何に使うかは別としてやはりそれなりのスペースは絶対必要だと皆さん思っていると思うがいかがか。

【会長】

おそらく練習室が無くて良いとの意見は見当たらない気がする。資料に書かれているよう

に創造の場所、発信する、作るというのが大事であるばかりではなく新たな文化施設の機能としてそもそも大ホールと先程のクリエイティブのリハーサル室（小劇場）、それだけで良いのか、日常的にどのような活動がなされるかという場として実はこの練習室はとても大事なところで、名前はどうかはあるが、これ無くしては新たな文化施設と言いが無い気がする。これこそ大事。ここで、市民は日常的に稽古もすれば作りもして、お花やお茶もするかもしれない一番使い勝手が良い場所。それを無くすとの発想自体が理解できない。これがあって初めて文化施設だと思う。

【委員】

その通り。

【会長】

委員も同じようなことを言ってくさっている。我々としてこれは譲れないとの見解かと思う。

【委員】

そう思う。

【会長】

このように整理してお返す。

事務室（利用者打合せ室）についてご意見はあるか。

【委員】

事務室の考え方もあくまでも利用者の受付をするためだけのスペースのように受け取れる書き方、ご意見の述べられ方をされているので気がかりなのは、このホールはどのような運営の仕方とどのようなスタッフで回していくのかによりここに必要なスペースは当然変わってくるだろうと思う。受付事務だけで良ければ小さい部屋でも構わないが、当然ここをハブ拠点とした長崎市の文化運営を行うようなスペース、芸術に精通した専門のスタッフを置いているいろいろなことに取り組んでいくクリエイティブな文化振興活動をしていくスペースだとなればそれ相応のスペースがだんだん必要になってくると思うので、それは今後運営方法も同時進行で議論する中で自ずと決まっていく気がするので、今この場で車椅子だから、打合せが、荷物置きがとそのような話ではきつと無い気がしている。

【会長】

車椅子対応は当然。

【委員】

私どもは個室が無いと困る。年間いくつかの劇団をお迎えする中で運営サークルの会員で運営をしている。3か月前から立ち上げ会議を何回も重ね当日3日間の例会を作るための運営サークル活動をしている。年間を通して絶え間なく次は何月例会の皆さんが来るとずっとある。ほとんど途切れがないようにあるが、その中でやはり当日自分たちの意思を結集する、いろいろな備品を運んできて、それぞれの役割分担の仕事をするのにある程度の個室は必要。ミーティングもあるし、いろいろな意味でとても重要な場所だと思っているので何としてもここは作っていただきたい。

【会長】

委員からご指摘のあった専門のスタッフや舞台スタッフの皆さんのお部屋とは別にここは打合せのためのスペースが個室で良いのかオープンで共用のスペースで良いのかとの点に絞った検討ではないか。

【事務局】

そうである。

【会長】

これだけでなく他の部屋はある。

【事務局】

もちろんある。あくまでブリックホールでいえばカウンターで打合せをしている申し込みをされる方達との部屋。

【会長】

それが区切られているかオープンで良いのかは検討をしてみないかとのことだった。

【事務局】

説明が不足していたかと思う。ここが事務室との書き方なのがたぶん紛らわしく利用者打合せ室だけの話をしている。具体的に申し上げると、ブリックホールでいえば申込のカウンタースペース。今対面で皆さん受付の方とブリックホールの4階で申し込みや打合せなどをされているかと思うが、「利用者打合せ室」は、利用の申し込みをするスペースでありその後スタッフとの打合せをするスペースを指している。

【委員】

ブリックホールだとカウンターと別に個室がある。

【事務局】

それが応接室。同じイメージでいる。

【委員】

個室が無いと例えば舞台のスタッフの人や何人かがするにはカウンターでは難しいので、そのスペースだったら必要だと思う。

【事務局】

そのことを今説明しているつもりだった。紛らわしくて申し訳ない。応接室のような個室は当然あり、頻度的にどうしてもカウンターが打合せは多いので、必要に応じて兼用させるような、個室は必ずあるが、専用かどうかは検討できないかとの提案。

【委員】

個室があったほうがより良いと思う。委員がおっしゃったのは催しの時の主催者控室のことかと思うが、主催者側も運営するためにスタッフを組織して運営するので、それはそれで必要と思っている。そのスペースは資料に書いている部屋とは別か。

【事務局】

別である。

【委員】

まだ設計ができてないので分からないと思うが、この大ホール、リハーサル室、練習室、ホワイエ・エントランスロビーのどれかが外の空間とどうつながっているかといういろいろ想像し、そこに芝生が広がっていたらオープンでつながる空間ができ、この中でなく外とつながる空間もできたら、劇場の通路が上にあれば屋根になるのでその外の空間とつながる設計がどうなるか分からないが、そうすればもう少しその場所を広く使える形になるかと設計がまだできていないが考えて想像してみた。

【会長】

今日は個別について少し意見交換をさせていただいた。他に全体通してあるいは個別な事案で言いそびれたご意見があれば。

【委員】

私は享受する側の代表として座っているが、市のスタッフと我々委員と同じ方向を向いて今までしてきた。これから50年使う施設を、最後僕らはもう生きていない、会場に足を運べない状態になっていると思うが、子どもたちはそれを自分たちの芸術の場、文化の場とし

で楽しんでくれると思う。それに恥ずかしくない施設を今から作ろうとしている。皆さんのご意見を見ても過去に見たいろいろな施設の失敗を念頭に置き、こうはしたくない、今度はこうしたいとの改善点を盛り込んだ、しかしある程度の妥協を重ねある程度満足できる子どもたちに伝えていける施設を今から作ろうとしている。今でも市と我々が同じ方向を向いている、一緒に後世に残せるものを作っていこうと事務局から一言言っていただけないか。

【事務局】

先程会長からもあったが、冒頭申し上げたように、また前回も少し申し上げ、今回の見直しの考え方も述べさせていただいたが、決してこれで進めていこう、これありきと考えているわけではなく、ただいろいろな状況の変化を受け止め、本日本当に、利用されている立場からのいろいろな観点からの貴重なご意見がお聞きできたと思ういろいろなヒントもいただけたと思っている。そのような部分を反映させながら、今お話あったように少しでも良いもの、またいろいろな状況の変化も踏まえたものをそのような形でしていきたいと思、まさに同じ方向で、一緒になり議論をさせていただきながら、最終形の整理をしていきたいと今回一つのまずスタートの案をお示したところなので、私としてはお話あったように、皆さんの本当に真摯な実際の実情も踏まえたご意見を聞かせていただきながら一緒になり考えていきたいと思っていることは間違いなし、そのように考え前回もお示しし今回もそのような考えで臨んでいるのでぜひ今後とも忌憚のない率直なご意見をいただきたい。

【委員】

ありがたい。無礼なことを申して申し訳ない。

【委員】

今回の議論の中で名称のことで少しこうしたらどうかと申し上げた後にも委員から練習室は創造室にとの意見が出てきて皆さんと共通で思っていることとして明らかになったのはやはりこのホールは何か創造する空間ということではないかと思った。演奏を聞いたり鑑賞したりもとても大事だがこれからの文化施設は市民がどれだけクリエイティブにそこを活用できるのが大事だと思うので、そのような方向で一つまとめ、事務局と思っても一つということも分かったので、また先に進んでいけたらと考える。

【会長】

この新たに作る文化施設がどんなエリアになってほしいかと考えた。今度は、民間の力を借りることもあると思うが、市民も利用者もあるいは企業の人にも創造性を感じる場でないといけないような、企業が感じる創造性は面白い、我々文化団体が思う創造性は夢だったり希望だったりわくわく感だと思うが、そういう場であると思うので、いたずらに縮小、削減と

いろいろ経費の問題はあるがそちらだけの議論にならないようにそもそもこの場では何を
していくかを常に考えながら、委員と創造性クリエイティブは意見が一致した。一緒に考え
ていけたらと思う。

以上